

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300103		
法人名	医療法人 豊資会		
事業所名	ハイマート杏 グループホーム杏		
所在地	福岡県宗像市田野1370-2 (電話)0940-38-7500(代表) 050-3733-2145(直通)		
自己評価作成日	平成28年8月12日	評価結果確定日	平成28年9月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php?action=kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP:http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	平成28年8月23日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

一日でも長くご本人らしく過ごして頂く事を目標に、画一的な計画作成をせずにその方に合わせた柔軟なサービスを提供することを心がけている。そのために、職員教育などにも力を入れ、杏らしさは何かをスタッフ一同日々模索している。近隣地域でオンリーワンの存在になれるように、隣接した玄海東小学校と積極的に交流を行い、地域コミュニティとも積極的にかかわり良好な関係つくりにも努めている。スタッフやサービスの質を高める為にも、市内の地域密着型サービス事業所のネットワークにも積極的に参加し、事業所間で交流や情報共有を深めるように努めている。認知症実践者研修の全員受講を目指して毎回スタッフを参加させている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ドイツ語でふるさとを意味する「ハイマート杏」は古賀にある医療法人を母体を持つ、小規模多機能と併設された2ユニット型グループホームである。古賀近郊ではかねてから介護施設などを多数運営していたが、宗像からの利用者も多く、地域への貢献を目指して6年前に開設された。今までの経験から、入居者の活動範囲を広げ相互交流を活発にするために平屋建ての造りにしているが、その効果も十二分に表れ、併設の小規模多機能とも一体的に往来され、一つのコミュニティが形成されている。施設には市の委託で地域交流室も設けられ、こちらは自治会に開放するほか、事業所が主体となって認知症予防教室なども運営されている。毎年恒例の事業所の秋祭りも地域に開放しており、今では地域の催しとして認知されている。日頃も18名の入居者それぞれの生活スタイルを大事に、個別のプランを考えその人らしさを発揮するケアを提供している。今後も地域福祉の中心となる活躍が期待される事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営規程や重要事項説明書に地域密着型サービスの方針を明記し、基本理念である「迅速・正確・気配りをモットーに自分や家族が心から利用したい医療・介護・福祉サービスを提供する」を玄関口に掲示している。また、朝礼及び昼礼時に基本理念と事業所理念を唱和することでスタッフの意識付けをしている。	法人理念とは別に、事業所独自の理念もあり、独自理念は職員それぞれの思いをくみ取って、法人理念に基づいて平成24年に作成した。朝礼などを通して毎日接することで浸透しており、名刺サイズに印字することでいつでも見れるようにもしている。日頃のケアで気づいたこともその場で注意するようにしており、個人の目標も定めて評価制度と合わせて理念の実践に努めている。	思いの込められた理念の共有が進められてきているが、開設から7年経ったこともあり、現在の職員や入居者の状態も踏まえながら、見直しや振り返りの機会がもたれることにも期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区自治会に参加し、回覧板がまわってきている。自治会総会は事業所介護予防拠点にて開催されている。また地区清掃にも参加している。秋祭りは地域住民の方にも沢山参加して頂いた。また、隣接する玄海東小学校と敬老会やクリスマス会、餅つきなど積極的に交流会を設けている。	開設当初から地域交流は深く、事業所の夏祭り、餅つきに招いたり、小学校行事にも招待いただいている。地域コミュニティで行われる文化祭には入居者の作品展示もさせてもらい催しには積極的に参加している。日常的にも散歩の際に近隣の方とあいさつを交わしたり、差し入れを頂くこともある。毎週介護予防教室を開き、年3回の自治総会時にも介護相談を受けることもある。自治活動として地域清掃も年2回程度入居者と一緒に参加している。	地域への催し、相互参加などは十分に取組みられており、地域への認知度が高まっている。今後さらに地域の高齢化が進み、グループホームに求められるものが多角化する中で「ハイマート杏」ならではの独自性をもった取り組みが今後も検討されていくことに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2か月に1度開催している運営推進会議に、地域住民代表、地域コミュニティ代表、民生委員等に参加いただき、杏での取り組みを報告している。また隣接する介護予防拠点での事業として介護予防教室を実施。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	重要事項説明書で運営推進会議の概要を説明するとともに、運営推進会議規則を整備している。2か月に1度、市担当者、民生委員、地域コミュニティ代表、地域住民代表、ご家族に参加いただき、杏での取り組みを報告するとともに、外部からのご意見を都度いただいている。	併設の小規模多機能と合同で開催しており、年間を通して予定を決めることで参加予定も確保してもらっている。事業所からの報告のほか、昨年はミニ勉強会にして変化も持たせている。今年度は派出所からも参加してもらおう予定である。家族にも全員に案内し、6名ほどが参加されることもある。マンネリ化しないように工夫して取り組んでおり、AED研修や敬老会など同日開催することもあった。	議事録は準備されているが、より情報の共有を進めていくため、見やすい場所への閲覧ファイル設置や、不参加者などへの郵送なども検討されてはどうか。地域の垣根を超えた話し合いや、家族の要望がさらに引き出せるような会議になるよう、引き続き上を目指して検討されていくことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	開設時より市担当者様より様々な情報提供やアドバイスを受けている。また地域密着型事業所ネットワークにも担当者の方に参加いただき、その場にての情報共有や質疑応答も行っている。	2か月ごとの運営推進会議には市役所からも毎回参加され、同様に市が主催する地域密着会議も隔月で開かれており、そこにも参加している。入居状況も毎月報告し、顔を合わせる機会も多いため、日頃から相談事などもしやすいく。介護申請も窓口訪問状況なども日々連携をとっている。入居相談を頂くこともあり、入居につながったケースもあった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営規程および重要事項説明書に、身体拘束等の禁止について明記するとともに、契約時に説明をしている。また、職員勉強会にて身体拘束に関する勉強を実施して、理解を深めている。居室及び玄関の施錠はしていない。車椅子の使用は移動に伴う使用及び必要性のある方に限定している。	玄関施錠は夜間のみで、日中はセンサーチャイムで管理している。開設当初は離設もあったが、今は見守りで対応できており、無理に引き留めることもなく管理している。基本的に拘束をしない方針で、今までに事例もなかった。研修は主に事業所の内部で行い、スピーチロックにもその都度注意して意識づけている。	万が一の徘徊に備えて、市内の地域密着型事業所ネットワークや市役所との協力体制や、自治会、コミュニティとの連絡体制などの整備が進められていくことが望まれる。

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎年必ず職員研修にて高齢者虐待の勉強会を実施している。身体的虐待だけでなく心的、社会的虐待がないように理解を深めている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ご家族の方等に必要に応じて説明ができるように職員勉強会を実施している。現在制度の利用をされている方はいらっしやらないが、必要性を感じたご家族には説明を実施している。	以前入居されている方から自立支援事業の相談事例はあったが、活用までには至らなかった。現在は、家族主体で進めた成年後見制度の利用があり、勉強会によって一般的な知識は持つようになっている。必要時に備えて資料やパンフレットの準備もしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書に関しては契約時に内容を説明し、疑問や質問等もお聞きしている。内容に関しては後日再読していただくよう依頼し、疑問等あれば随時お答えするようにしている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業者関係機関への意見や苦情窓口を明記するとともにご意見箱を設置している。面会や電話連絡を活用して、日々のご意見ご要望等随時伺っている。その内容については事業所会議等にて検討している。	家族も協力的で毎日来る方から少なくとも月1回は来訪される方もいる。相談事などは面会時に対面で行うことが多く、毎月の請求書にも同封で担当職員からの一筆箋もいれて報告につなげている。以前は家族会やアンケートもあったが、負担の意見もあり、いまはしていない。行事などへの参加は多い。	秋祭りや敬老会、忘年会の時に家族にも参加してもらっているが、その際に同日で時間を少しでもとって家族同士の交流の場ともなるような取り組みがなされることに期待したい。隠れた意見を引き出すために、法人主体などで匿名性を確保したアンケートなども検討されてはどうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月原則全スタッフ参加のミーティングを実施し、意見交換や提案の場を設けている。また、年に4回ほど個別面談を実施し、スタッフ各個人の意見や要望を聞く場を設けている。	朝昼の申し送りのほか、月2回のカンファレンスがあり、その場で情報を共有している。最近では家族からの頂きものなどの取り扱いに関して、担当者ごとに対応が変わらないよう統一したルールを定めた。職員の目標設定や個別面談をしており、今はアセッサー資格を管理者が取得し、技術向上にも取り組んでいる。会議だけでなく、日頃のコミュニケーションを密にとることで日々の改善にもつながっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別面談を通し、スタッフ個人の業務内容や個人努力進路希望などを確認する機会を設けている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用には年齢や性別の区別はなく、HPやハローワーク等にて職員を募集し採用している。系列法人からの異動職員もいる。スタッフは20代から70代まで幅広く採用されている。雇用契約書や就業規則を整備し、年次有給休暇の取得を支援しており、法人全体での忘年会等も開催し、職員の労を労わっている。	年代の幅も広く、男性職員も割合は比較的多い。こー、二年は職員の定着もよくなってきており、長く勤めている職員も多い。今年には外部研修の参加機会も設けるようにし、希望したものに参加できるような働きかけがなされている。シフト調整や有給休暇の取得も奨励しており、休憩時間やスタッフルームも確保されていた。	

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入職時、系列法人全体で基本理念を研修する際に、人権研修を実施している。人権やプライバシーに関する勉強会も事業所で実施し、職員の理解を深めるべく努めている。関連マニュアルも整備している。	認知症実践者研修は全職員が受けることを目指しており、人権学習にもつなげている。理念や倫理綱領の中にも人権に関して触れられており、入植時の研修や内部研修で取り上げている。	今年度は外部研修の参加を積極的にする考えで、その中でも行政や公民館の行うような人権学習に取り組まれていくことが望まれる。
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々学んでいくことを意識するため、事業所、法人、外部等の勉強会や研修会に参加する機会を設けている。法人内事業所の研修会等の情報も共有出来る為参加を促している。個人のスキルアップを推奨し、リーダーよりスーパーバイズしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宗像市内の地域密着型サービス事業所ネットワーク所属し、定例会や研修会に参加するとともに、勉強会や情報交換、スタッフ交流を行っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始前に、利用者と直接面談を行い、疑問点や要望点を伺うように努めている。サービス開始にあたり、管理者やケアマネジャーがアセスメントを通して状況把握に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始時は管理者やケアマネジャーがアセスメントを実施し、ご家族と直接面談を行い状況把握に努めている。サービス開始後は対応について随時ご家族に報告、相談するとともに、ご家族等が相談しやすい環境作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入時のアセスメントにより必要と考えられたサービス、その旨を説明し必要に応じて相談窓口等を案内している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々のかかわりの中で利用者様の能力や趣味、嗜好等の気づきについては会議等で職員間で情報共有することでご本人が楽しみながら過ごして頂けるようにしている。また、食事の準備や後片付け、施設内の飾りづくり等へ参加を促したり、ご意見をきくことで、その方のやりがいや生きがいを引き出すように努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の状況は電話連絡及び面会時に情報を提供し、ご要望やご意見もいただいている。また、行事等への参加を呼びかけご家族も一緒に参加頂くことで杏の取り組みを知っていただき、より深い関係作りを目指している。またご家族のご要望を一方向的に承諾するのではなく、出来る範囲でご協力頂いている。		

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月の行事に関しては利用者様のご意見をやなじみの場所等お聞きして、設定するようにしている。 買い物や食事会等は行きたいところに行くように努めている。	帰宅願望の強い方を自宅にお連れして草取りなどをしたり、家族以外にも近隣の友人などが来訪することも多い。個別の要望に対しても買い物や食事会などを少人数で企画して、対応することがあり、家族に連れ出してもらってなじみの美容室などに行く方もいる。家族も協力的で外泊などする方も多く、事業所からも支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士がなじみの関係になれるように、座席を工夫したり、レクの取り組みを行っている。隣接する小規模多機能型居宅介護支援事業所とも自由に行き来ができるため、そちらでなじみの関係を築いている利用者もいる。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などの際も、本人様ご家族様と連携をとりながら必要な情報提供など協力することができるように努めていきたい。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントシート(生活歴)やセンター方式を利用しその方の生活歴や趣味、嗜好等をご本人またはご家族からお聞きすることで本人様の状況やできる事できないことなどの把握を行っている。また、日々のコミュニケーションからも希望や意向を確認できるように努めている	アセスメントにはセンター方式のすべての様式を活用しており、初回は家族にも依頼して必要な項目を直接記入してもらって情報を得ている。担当職員も決めて半年ごとの見直しも行い、字の色を変えて追記し、事細かな読み取りにつなげている。意思疎通の難しい方には家族からの聞き取りやケア時の変化、表情を読み取って対応を検討する。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にアセスメントシート(生活歴)やセンター方式を利用しご本人ご家族より生活歴等を確認している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方ができる事や興味があることを日々のレクリエーションや創作活動、会話等を通して把握するように努めている。その内容は職員間で連絡ノートや職員会議等を通じ情報共有している。またケアプランに反映するように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向を把握し、ケアマネジャーと担当職員が協議しながら介護計画書を作成し、その内容や六ヶ月毎の評価については全スタッフ参加する会議にて検討される。 計画書が更新・変更された際は必ずご家族に説明、同意を得ている。	ケアプランはケアマネが主に作成し、センター方式を担当する職員の意見を取り入れながら行っている。居室担当を決め、アセスメント、モニタリング、家族への報告、備品管理などを担っている。カンファレンスで全員の情報も共有し、プランの見直し時は全職員に配布して通達するようにもしている。モニタリングも3か月で行い、見直し時には家族などの意見も聞きながらプランにつなげている。	

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表・介護記録(電子記録)にその日の状況は記録している。記録の中での気づきや取り組み結果などは職員会議での検討を経て介護計画書に反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を把握し、ケアマネージャーと担当職員が協議しながら介護計画書を作成し、その内容は全スタッフ参加する会議にて検討し現時点で必要なサービスを柔軟に取り入れている。計画書が更新・変更された際は必ずご家族に説明、同意を得ている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	隣接する玄海東小学校との交流には特に力をいれている。小学4年生と5年生を中心に学校の先生と交流企画を検討し、敬老会やクリスマス会、餅つき実施しているほか小学校の文化祭や運動会、1/2成人式に参加している。地域コミュニティのコンサートや文化祭などにも参加している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人およびご家族が希望するかかりつけ医を指定して頂いている方、及び定期的に系列法人の診療所の往診を利用している方もいる。系列法人診療所は2週間に1度の頻度で往診に来て頂いている。	希望があれば外部のかかりつけも継続できるが、内科は法人病院で対応できるため、現在は全員が利用している。ユニットごとに隔週で訪問診療があるため、ほぼ毎週医師にきてもらっている。他科受診の際は家族が支援することもあり、その都度情報も共有している。医療情報の申し送りに使うノートもある。系列訪問看護との連携もオンラインで参照され、健康管理につなげている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ほぼ毎日看護師が出勤し、利用者の状況把握に努めている。また、気になる症状等がある場合は看護職に常に連絡相談できる体制を整えている。緊急を要する場合はご家族へ連絡し受診していただくか救急搬送している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は十分な情報提供ができるように現場リーダー、ケアマネージャーを中心に連絡を取るよう努め、必要時はスタッフと共に病院のカンファレンス等に参加させて頂いている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期は訪問看護やかかりつけ医との連携、系列法人の診療所を活用している。終末期に関する説明書や依頼書は準備しており、必要な方には説明し署名捺印いただいている。	希望されればターミナルケアも支援し、これまでも数名の看取りを行ってきた。事業所としての看取り指針もあり、契約時の説明と、重度化の際に改めて医師の立会いのもと同意書を得るようにしている。提携医や訪問看護も24時間体制で、看取りプランも立てて対応する。内部研修でも勉強会を行い看取りマニュアルに沿って、医師からの指示も共有している。	

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを備えるとともに消防署の協力を得て、救急救命の講習会を実施している。また、緊急時や事故発生時についての勉強会を実施している。緊急時の連絡網には自治会の方にもご参加いただいている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルや緊急連絡網を整備し、消防署の協力を得ながら避難訓練を実施している。(年2回実施)訓練には地元の消防団の方や地域の方にも参加頂いている。	年2回の防災訓練があり、1回は日中、1回は夜間想定でいずれも消防署に立ち会ってもらっている。AED講習もその際に行い、地域の方や消防団の方に来てもらうこともある。緊急通報先に地域の方にも入ってもらっており、近隣の方に協力を依頼している。水と簡易食料の備蓄があり、コンロなども準備している。平屋建てのため避難経路を探しやすく、どの位置からも避難できる。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営規程に個人情報保護の取り扱いを明記し、契約書や重要事項には個人情報を提供する目的等内容を詳細に明記している。個人記録は施錠できるキャビネットで保管している。プライバシーや個人情報保護に関する勉強会を実施するとともに利用者様への声かけや接し方に気を配っている。	個人記録の管理はファイルはキャビネットで施錠し、ほかの記録は電子保管に切り替えている。内部研修で接遇に関しても取り上げ、写真利用に関しては内部に留め、口頭で同意を得るようにしている。プライバシーにも配慮し、居室のドアも開けっ放しにしないよう気を付けている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	体操・レクへの参加や入浴の時間などは本人様の意思を確認し尊重するようにしている。出来るだけ日常の会話から本人様の思いや希望を確認できるように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物やドライブはご利用者の希望にそって実施している。散歩も同様にその日の天気と希望により実施している。レクや体操、創作活動等も自由参加としている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望により理美容を利用できるようにしている。また、女性ご利用者にはマニキュア等も希望に応じて実施している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付けについては職員とご利用者が一緒に行っている。日常食は職員とご利用者が同じ物を食することは無いが、定期的に食事作りやおやつ作り、行事等を通じ共に食事をする機会を設け食事を楽しむようにしている。	食事は法人の給食センターからの配食があり、ご飯と汁物のみ事業所で調理、盛り付け、配膳をしている。一緒に買い物に行って調理レクやおやつレクをすることもあり、手伝える方には手伝ってもらっている。希望があればパン食にすることも可能で、個別対応も行う。感想や要望などもアンケートであげており、職員は別の時間に個別で食事をしている。	

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各利用者様の食事量と水分量を把握し記録している。食形態等については毎月の会議で検討し、必要時は変更している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後にうがいや歯磨きの声かけを行い実施していただいている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要に応じて排泄の誘導および介助を実施している。排泄チェック表を利用し、なるべくトイレでの排泄ができるように誘導・声かけしている。	トイレは3か所あり、車いすでも使用できる広めの造りになっている。排泄チェックはパソコンを使って記録するようにしており、水分摂取量などとともにグラフで管理出来るようになってきている。入居すぐは紙おむつだった方もリハビリになり、ポータブルトイレも使用して失禁も減り状態改善につながった。提案も気が付いた職員から自発的に行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄についての勉強会を実施している。排泄状態を把握し、腹部マッサージを行うなどなるべくトイレでの排泄ができるように努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴は実施している。時間についてもなるべく本人様の希望に応じている。	浴室はユニットタイプの普通式で、片方はリフト型の機械浴が設置され、状態が悪くなくても対応が出来るように準備されている。週3回程度午前から午後の時間に対応し、希望されれば夕食後の時間帯にも対応されている。入浴剤やシャンプーなどは事業所で準備し、ゆずなどの季節浴で提供することもある。皮膚観察の場にも役立て、必要時は報告も上げている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムを把握し、昼寝の習慣がある方などには対応できるようにしている。夜間眠れない場合などは職員がともに付き添い過ごすようにしている。また本人様が眠りやすいような住環境などを工夫するように努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人記録に薬の情報を記載し、服薬一覧表も整備している。薬や既往に変化がある方については連絡ノートで随時情報共有するとともに会議等で随時確認を取っている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の会話の中から本人様の趣味嗜好を探り、興味を持っていただけそうな活動を提供している。食事の準備や茶碗拭きなどの生活リハビリとなることも声かけにて参加いただいている。活動がマンネリ化しないように会議等で話し合いも行っている。		

H28自己・外部評価表(グループホーム杏)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブはその日の天候や希望により随時実施できるようにしている。 またご家族や地域の方から外出するのに良い場所の情報等をいただいている。	季節の花々の咲く時期はドライブに行ったり、近隣を散歩して回ったり、海にも10分程度で出られるため足を伸ばすことも多い。行事以外にも日常的に外出をしており、買い物や外食、敷地内の散歩など外出機会を持っている。社用車は全て車いす対応のため、事業所全体での外出が楽しまっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方はお金を所持していただいている場合もある。参拝やちょっとしたドライブでお金を使われる方もいる。 買い物の際は、ご自分で支払いしていただけるよう支援している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は容貌により自由に使える。又、希望があれば居室に電話を設置することができる。その際、プライバシーに配慮した形で支援していきたい。手紙も自由にやりとり頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁に行事の写真を掲示したり、テーブルに植物を配置することで、利用者様に季節感を感じていただいている。 2ヶ月に一度フラワーアレンジメント教室を開催し、そこで季節のお花を楽しむ機会も設けている。	2ユニットをつなぐ中心に玄関とスタッフルームがあり、左右にリビングが広がっている。平屋建てだが天井も高く開放感があり、窓も大きいため採光もよい。壁一面を使って行事の際の写真なども飾られ彩を添えている。併設の小規模多機能ともドアを隔ててつながっているため、建物内をいっばいにつかって歩行訓練も可能で、入居者もそれぞれのスペースにゆとりをもってゆったりと寛ぐことができる。風通しもよく掃き出し窓を開けると心地よい風が感じられる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳やソファを設置したりし、自由にフロアで過ごすことができるようにしている。又、席は固定せず好きな場所を選んでいただけるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋はなるべく自宅に近い状態を作るように努めている。使い慣れた物など自由に持ち込みできるようにしている。	各居室には洗面台、クローゼットが共通の作りで置かれ、介護ベッドも事業所によって準備されている。床はフローリング調のマットで滑りにくい造りにもなっている。ドアには小さい小窓もつけられ、夜間の見回りには眠りを妨げないように観察することもできる。清掃も行き届き、備え付けのハンガーレールに家族写真やお気に入りのポスターなどを下げて、思い思いの部屋作りをされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー構造になっており、手すり等も整備されている。なるべくご自分で行動していただき、過剰な介護にならないように気を配りながら支援している。		